

新合

建永元年 建仁元年
建永元年 九月
建仁元年 九月
同日九月

御相待臣歌合 建永元年
歌合 建曆三年
歌合 同月九月十三夜
影供歌合 建仁元年八月
羅利留礼昌之歌

甲 二部之中

特別
ハ4
8073
2

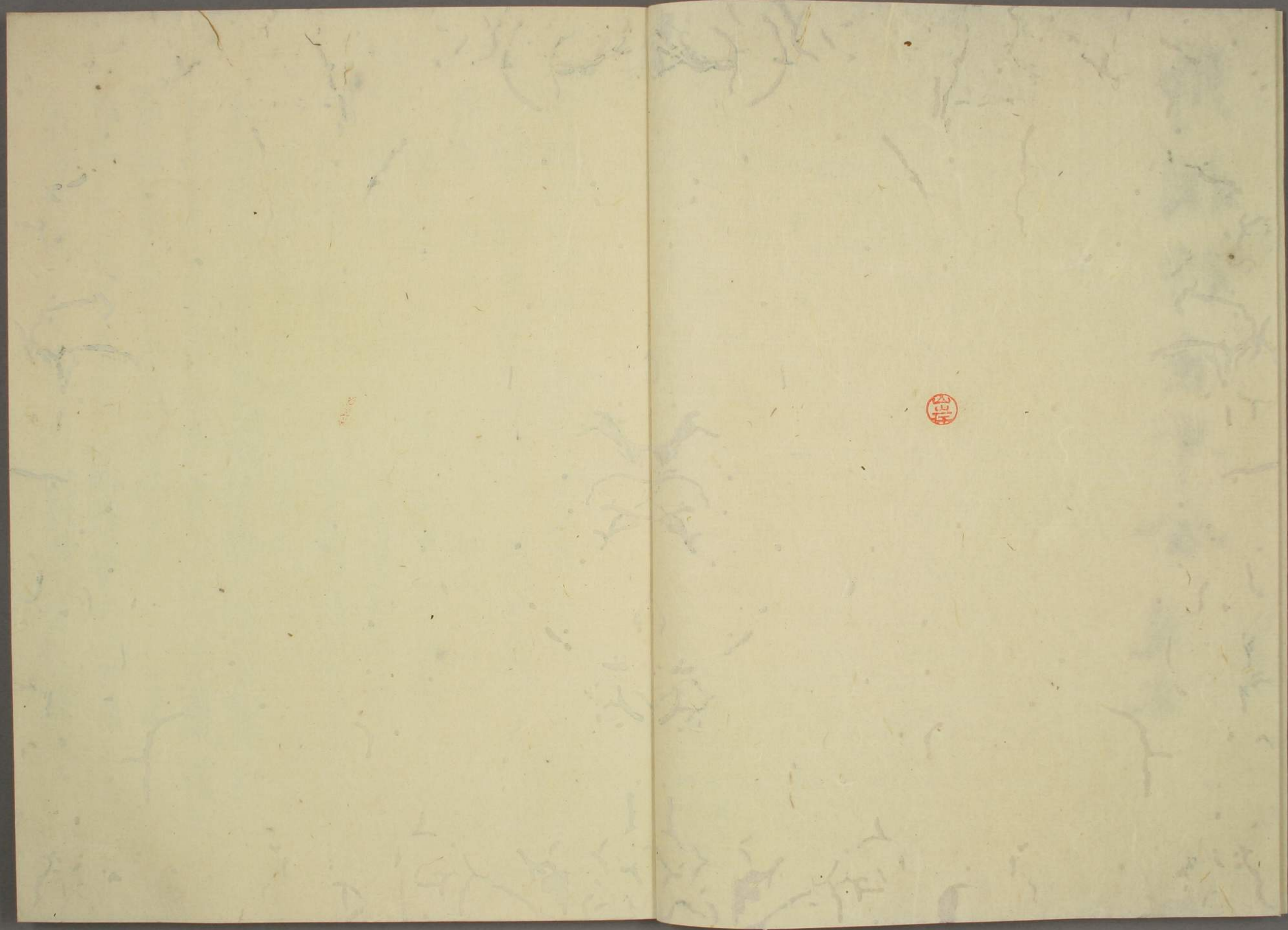


歸相侍臣舟公

遠承

4
8073
1

< 96-350 >



建永元年七月廿五日御相待臣歌合 廿番
 建曆三年閏九月十九日仙洞歌合 十八番
 建保五年九月廿八日白家歌合 廿番
 建曆三年九月十二日家歌合 十五番
 建仁元年八月三日新供歌合 百番
 廿番
 廿番
 廿番
 廿番

卿相待臣歌合 建永元年七月廿五日
 題 朝草花 海邊月 薊中暮
 作者 左方 右方



御製表 勝三持一

建永元年
 忠經任
 左方

内大臣 負二勝一

前大納言藤原忠良持三頁一

左衛門督源通光 勝負持

中納言藤原季能 勝三

權中納言源通具 勝二頁一

系議藤原良平 勝持二

正三位藤原季能 勝持一

文内大臣藤原隆 持二頁二

大納言藤原有家 持二頁一

右近衛中将藤原定家 負二持一

越前 勝二持二

左近衛少尉藤原季能 負勝持

右近衛少尉源具親 負三

丹後 負三勝一

散位藤原保季 負二持二

小比叡祿宣祝部成茂 負三持一

後成女

勝二頁二

九近権打於菰原推經

勝二頁一

護師右

讀師左判

亦儀

詞神筆

は日とち

一番左勝

朝草花

御製

ふりやれふりくしれ思ふるふりまふりくふりふり

右

家隆朝臣中言の菰原推經

わう神むけさりあをりはれゆらゆらの菰原推經
たぢり部Pゆしゆらゆらとあひゆらゆらと
て判の泡はつらゆらゆらとあひゆらゆらと
ゆらゆらとあひゆらゆらとあひゆらゆらと
ゆらゆらとあひゆらゆらとあひゆらゆらと
又さす指事としてたの指しゆらゆらと

二番左

田代

あうはちとあせう神ひまひと尾花の菰原推經
六孫 者家朝臣中大言の菰原推經

二番 取おれぬりり 羽衣よわれ忠神をその入の杖を
た方よぞや首たすい まゝにさしこむやう

三番 七勝

前大信心き日

羽衣よあ〜ゆ〜の〜あ〜して〜神〜と〜我の〜
言も羽衣に中をさし給ふは忠神

おあ〜下〜業り〜む〜と〜我の〜業〜を〜た〜ゆ〜を〜ゆ〜

七方 願望〜ゆ〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜た〜

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

四番 七お

忠良 中権大信心者忠良

里いあれてま〜比の〜二番 取おれぬりり 忠神をその入の杖を

七

神

お〜と〜成〜し〜昔〜の〜江〜花〜を〜ゆ〜た〜り〜り〜の〜白〜く〜お〜

た〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜り〜

より〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

た〜方〜陳〜し〜む〜の〜心〜あ〜る〜入〜麻〜科〜と〜あ〜る〜

通光 中権大信心者通光

ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

七

忠良 中権大信心者忠良

よ〜并〜取〜あ〜あ〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

た〜中〜申〜宣〜由〜た〜方〜ゆ〜る〜こ〜ま〜は〜る〜い〜け〜い〜

羽衣を要ん〜ゆ〜ゆ〜

忠良 中権大信心者忠良

羽衣のゆ〜あ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜

古

具親 中右近衛権大夫の具親

ふゆい入野の藤あめくしめあつちの山あひうと音

たふより上りやるれいる由申えたる万音し旨

七番 尾 縁

通具 中右近衛権大夫の通具

終る花のこころあつちの藤あひうと音

七

母後

流くあつちの藤あひうと音

たふより上りやるれいる由申えたる万音し旨

あつちの藤あひうと音

大印也 たる方陳尸あるとある藤あひうと音

はあつちの藤あひうと音

いさうこころあつちの藤あひうと音

るく優ちるゆり

八番 尾 縁

良平 中右近衛権大夫の良平

小若あつちの藤あひうと音

七

保孝 中右近衛権大夫の保孝

あつちの藤あひうと音

たる方持てきり旨 たる方しとくやふりし旨

九番 尾 縁

孝子 中右近衛権大夫の孝子

あつちの藤あひうと音

七

後 中右近衛権大夫の後

りしあつちの藤あひうと音

たる方しとく由のまらたやあつちの藤あひうと音

尾 縁

とらふ月入るにまはるるあはれに神さるたは

ち あはれに

ひらきしころりやて者たは入おのころめりは

た ころり

廿二番た 内たは

わきあはれしころりはまはるるあはれにのまにのた

七 あはれに

都人まはれあはれまはるるあはれにのまにのた

た まはるるあはれに

し物たはまはるるあはれにのまにのた

廿三番た 内たは

わきあはれしころりはまはるるあはれにのまにのた

七 あはれに

まはるるあはれにのまにのた

た あはれに

廿四番た 忠良

わきあはれしころりはまはるるあはれにのまにのた

七 あはれに

まはるるあはれにのまにのた

た あはれに

廿五番た 通

わきあはれしころりはまはるるあはれにのまにのた

七 あはれに

まはるるあはれにのまにのた

と名をて 対面中名申し

廿七番目 縁

と縁の

これぬやちきうらさびさるるんこのまにきひのあは

大

具親

わかれし秋しころう橋衣さうのてまひさるる入夕な

たのりりえちつしこさへん

廿七番目

通具の

屋こつれい後ちく床のき枕ゆさあねのほのき

大勝

舟後

りち

款とあまうやとまきさうきさあつたやをぬさて

ちのりりえちつしこさへん

まよゆいぬせきりりこさへん

云ちまのちすのやのてんて 澤やまのてんて

ちのりりえちつしこさへん

廿七番目

長平の

まよゆいぬせきりりこさへん

大

保孝の

うつりしころうしりくたぬさのまきぬくのへんりり

ちのりりえちつしこさへん

よりりえちつしこさへん

廿七番目

孝の縁の

ちのりりえちつしこさへん

大

保孝の

ちのりりえちつしこさへん

秋合 建曆三年閏九月十九日 仙洞

題 深山月 寒野虫 寧風雜

作者 左 右

女房 勝三 丸近美權中將兼右大臣惟護 負三

大藏卿藤原朝臣有家 勝三 侍從兼右大臣之家 負三

從三位兼右大臣家衡 持三 左近衛權中納言兼右大臣通 持三

左内少輔兼右大臣隆 勝負持 後内女 負勝持

丹波守兼右大臣兼宗 勝二持一 左近衛權中納言兼右大臣 負二持一

散位兼右大臣 負勝持 侍從兼右大臣 勝負持

判者 侍從兼右大臣之家

海師 清師

一番 左 孫 深山月 女房

月夜の心もさびしきかな ちか人かゝるうらみ

大 雅純朝臣

河内守の心もさびしきかな ちか人かゝるうらみ

たう子神さるる河野也 下湯養実おきたう

か又優るる孫よはるとま ちか人かゝるうらみ

やいさわはるる又奥とつらんあかしの泡さる

要るはるわはるらんはる縁

二番 左 孫 有あつ 中太政官以下

好のふ月もさびしきかな ちか人かゝるうらみ

ちか人かゝるうらみ ちか人かゝるうらみ

海に優にまゝにたはるといふはなづから
ついでに勝とていふは

十番片縁 のこぎり 花宗朝臣

七月廿五日の事 のこぎり 花宗朝臣

七 た た

神宮のこのお祭りの事いふはなづから
なづから御守りして御守りなすはなづから
しるやあはれな御守りなすはなづから
よあはれな御守りなすはなづから
なづから御守りなすはなづから

十番片縁 のこぎり 花宗朝臣

世の事いふはなづから御守りなすはなづから

七 た た

神宮のこのお祭りの事いふはなづから
世の事いふはなづから御守りなすはなづから
よあはれな御守りなすはなづから
なづから御守りなすはなづから

十番片縁 のこぎり 花宗朝臣

五月廿五日の事 のこぎり 花宗朝臣

七 た た

神宮のこのお祭りの事いふはなづから
なづから御守りなすはなづから
よあはれな御守りなすはなづから
なづから御守りなすはなづから

七

るあか

山ありし一余ありあまふあそくわくふあそくあそく
けあそくわくふあそくの務員みえゆしあそく
山ありしあそく

十當たお

あそく

あそくあそくのあそくあそくのあそくあそくあそく

七

あそく

あそくあそくのあそくあそくのあそくあそくあそく
あそくのあそくあそくのあそくあそくあそくあそく
あそくあそくのあそくあそくのあそくあそくあそく

哥合

建曆三丁九月十三夜

題

江上月

旅宿意

暮山松

作者 左

右

女房

後三位女房源氏家衡

後三位

權大納言源氏家良平

女房志女遊婦

侍従源氏家

文田江源氏家隆

左近衛中納言源氏家

皇太后之大夫源氏家

左近衛中納言源氏家

侍従源氏家

傳師

讀師

十二番方

侍従

秋の夕日くれぬ岩の雲宮方の木葉のほろろ

七

あはれ

さゆの尾の雲のうららかにうららかに

十番方

侍従

いさよりの夕日くれぬ岩の雲宮方の木葉のほろろ

七

侍従

山あはれ楓の夕日くれぬ岩の雲宮方の木葉のほろろ

十番方

侍従

夕日くれぬ岩の雲宮方の木葉のほろろ

七

侍従

夕日くれぬ岩の雲宮方の木葉のほろろ

影供等合

建仁元年八月三日

題

初秋曉露

閑路秋風

旅月閑床

作者

故師出

初意

久意

九方

女房

九大臣三位藤原朝臣

勝五持一

内侍三位兼行右衛門大將美作守源朝臣

前権僧正慈圓

勝六

三位行權大納言藤原朝臣忠良

参議五位近衛中將兼源朝臣

勝三持二

從三位行武部大輔藤原朝臣光範

女房小侍從

勝一持三負二

女房讚岐

女房丹後

勝一持四負一

沙弥兼信

正五位近江中將源朝臣通具

勝三持二

散位從四位上藤原朝臣保冬

從五位上右馬助源朝臣家長

勝四負二

從五位上行真人天江朝臣景宗勝二
散位從五位下賀茂縣主季保勝一

右方

正五位下近衛權將兼執事兼少輔定家負五
沙弥寂蓮負五

女房越前勝四

從三位藤原朝臣範季持六

沙弥釋阿勝五

沙弥生蓮負三

從五位下守左兵衛佐源朝臣具親勝一

正位從五位下中京朝臣景賴勝二

散位從五位下中京朝臣宗女勝二

散位從五位下鴨縣主長明勝二
正位上從衛少尉藤原朝臣兼能勝三

從五位下守左近衛權將藤原朝臣雅經持一

散位從五位下藤原朝臣有家負六

女房宮内卿勝二

散位從五位下藤原朝臣降信勝三

法印靜賢勝一

正五位下右近衛權將藤原朝臣即平良勝二

僧慶中勝二

正位上行右衛門少尉藤原朝臣季景勝一

武者所六位上平朝臣景光勝三

讀師 左大臣 講師 定家朝臣
判者 沙弥釋阿 但於判者尋共衆議

一番

初秋曉露

左

右房

朝・ま・る・く・は・あ・わ・い・か・る・よ・と・な・る・は・ら・り・あ・は・る・の・風

七

左家朝臣

あ・と・秋・と・ゆ・い・ふ・や・わ・め・り・ん・か・る・と・も・あ・る・ま・の・家

三番 左勝

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

右

右大臣

あ・と・秋・と・ゆ・い・ふ・や・わ・め・り・ん・か・る・と・も・あ・る・ま・の・家

三番 左勝

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

四番 左勝

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

あ・ら・う・く・い・く・い・り・あ・は・る・あ・は・る・の・秋・と・あ・は・る

七

右大臣

秋の美しむとて 萩の海らやうつし 夕の光をみよの光
一巻 関路秋風

左 尾 縁

右 尾 房

まふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

右

左 尾 房

あふとく人かたの秋のほしとく 涼の風はののののの

二巻 尾 縁

左 尾 房

かよふとく秋の美しむとて 萩の海らやうつし 夕の光をみよの光

右

左 尾 房

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

三巻

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

七

萩 量

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

四巻 尾 縁

左 尾 房

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

七

萩 量

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

五巻 尾 縁

左 尾 房

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

右 尾 縁

左 尾 房

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

六巻 尾 縁

左 尾 房

あふとく月影の秋のほしとく 涼の風はののののの

七

文ゆつ

朝へまられんはとこのちや枝風もあまら川のを比

七番花お

光記

見らる夜のみま枝やふり夕まてくれし袂さしし

七

花季

山ありしよらとささるまをたけしこころは白川の笑

八番花

かゆは

吹さるる海風しほあま枝のりまはらうあま

者

隆信

秋つてのさめりしれなれはししの泣とさ川の笑

九番花

まよひ

まよひくろくまきしお返れ笑し枝のほの吹たり

七

尺の

あしあれ枝のいねとさあの実さうしほのうら白波

十番花

丹後

雲さけみやこころんはりの泣のりあつ白川の笑

七

お泉

ふれ又あまされ枝風あつしそはほたの笑と月こころん

十一番花

麻生

風さうつる夜れいまをけいそは袂さしし枝をさく

七

せと

枝風の夜れ笑しころころは白のまてあはらあつら

十二番花

通真

浦のうなれさうしほの笑さしこころはほたの笑と

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
一番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
二番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
三番 左勝 譲月 陣鹿 女座

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
三番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
四番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
五番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七

三糸光

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
六番 左勝 譲月 陣鹿 女座

あふれきうのしりし物はおほや実らね枝にゆめとく
六番 左勝 譲月 陣鹿 女座

七條

高田

日影いさつ、よまたぬ影をよそのおつとけしと
七番 左巧 光能

日影いさつ、よまたぬ影をよそのおつとけしと
大 能孝

あつちりのつとけしとけしとけしとけしと
八番 左巧 光能

とやうけねの影をよそのおつとけしと
大 能孝

月こつとけしとけしとけしとけしと
九番 左 潜

弟就座のきつとけしとけしとけしとけしと

右勝

釋行

八 けしとけしとけしとけしとけしとけしと
十番 左勝 丹後

けしとけしとけしとけしとけしとけしと
右 能孝

けしとけしとけしとけしとけしとけしと
十一番 左 能孝

けしとけしとけしとけしとけしとけしと
右 能孝

けしとけしとけしとけしとけしとけしと
十二番 左 能孝

けしとけしとけしとけしとけしとけしと

七 勝

うり年

いふひりちたよとよひのた七勝のへたひのひと

十三番たの 保孝
日とて怒と出しあもしとてうとくく〜のい

七 名 具親
いさるたぬか〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七 名 名
日とていあまははあ〜のい〜のい〜のい〜のい

七 名 名
夜ははたのい〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七 名 名
七番あつたのい〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七

葉歌

いひふたぬを病あう〜昔〜のい〜のい〜のい

七 名 名
七番あつたのい〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七 名 名
いふ〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

右

家安

日れた〜す〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七 名 名
七番あつたのい〜のい〜のい〜のい〜のい〜のい

七

糸支

よもぎの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

一番 花は 紅く 女香

よもぎの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

七

糸支

じつとよもぎの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

二番 花は 紅く 女香

よもぎの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

七

糸支

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

三番 花は 紅く 女香

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

七

糸支

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

四番 花は 紅く 女香

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

七

糸支

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

五番 花は 紅く 女香

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

七

糸支

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

六番 花は 紅く 女香

あけぼの葉の花のしほはむらさき色に染むる花の葉

大

京文

くらふきるまうびの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
一番 片お 初意 女唐

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
二番 片お 初意 女唐

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
三番 片お 初意 女唐

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
あはれにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌

大

京文

いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌
いさよにうらみはるの泣き音のしるしにうらみはるのねゆの歌

右 縁

小 縁

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

七 番

光 花

うたふれはゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふ

八 番

花 季

いづちあつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

九 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十一 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十二 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

右 縁

小 縁

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

七 番

光 花

うたふれはゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふゆりあふ

八 番

花 季

いづちあつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

九 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十一 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

十二 番

花 季

あつたきしあまのうらみはくしきりしむねをむすむすのこころをいふ

七

高田

信者... 史記

史記

七

龍野

... 龍野

龍野

七

龍野

... 龍野

龍野

...

...

七

押

...

押

七

押

...

押

七

押

...

押

...

押

良道心持の御書

良道心持の御書
 利己の心持を捨てて
 留己の心持を捨てて
 礼己の心持を捨てて
 呂己の心持を捨てて

本書所取書類皆在圖書寮

